

大学改革支援・学位授与機構 令和元年度人材育成セミナー
「大学等の幹部教職員向けIRセミナー」
 ワークシート入力内容一覧

※ 評価は5段階（◎、○、一、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	○	課題	分析者不足	評価※		
						整備	活用	
A 大学	データの整理、活用状況	評価※	○	課題	分析者不足	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	人材不足	教育	○	○
	IRに期待すること	学生の修学状況支援				研究	△	△
B 大学	データの整理、活用状況	評価※	×	課題	データを収集しただけで満足してしまい、データを活用することがない。	経営	×	×
	IR体制の整備状況	評価※	×	課題	IR担当者を設置している。法人部門にはIR担当者、大学部門にはIR準備室がある。	教育	×	×
	IRに期待すること	経営陣の意思決定の判断に資する情報を収集・可視化し、シンクタンク部門、経営企画参謀・ブレインとなること				研究	×	×
C 大学	データの整理、活用状況	評価※	一	課題	データの整理、活用に関し、その重要性を認識している教職員が少ない。また、データ収集は行っているが、整理されないままの状況のものも多数あり、そのデータをどのように活用すれば良いか、理解していない教職員が多い。	経営	一	×
	IR体制の整備状況	評価※	一	課題	今年度から、学内にIR推進室を整備し、専任の教職員を配置したところであるが、大学内においてIR業務がうまく機能しているとは言い難い状況にある。また、本学のような単科大学で少ない教職員の中から、専門のIR担当者を育成・確保していくのは、人件費等の財源からみても困難を伴う。	教育	○	一
	IRに期待すること	現在、教学マネジメントにおいてIRを活用することが求められており、教育の質向上に教学IRを役立てていければ良いと思う。				研究	△	×
D 大学	データの整理、活用状況	評価※	一	課題	データの収集・分析については一定の整備が行われた状況にあり、今後、分析結果を集約し大学の意思決定に繋げるための体制整備を更に進める必要があると考えている。	経営	△	一
	IR体制の整備状況	評価※	一	課題	データの分析結果を統括し、大学が取るべき方策の提案を機動的に行うための体制整備が急務であり、また、そのための人材を継続的に育成する必要があると考えている。	教育	○	○
	IRに期待すること	本学が「地域の知の拠点」としての役割を効果的かつ継続的に果たしていくための方策案を、エビデンスに基づいて策定していくことがIRに求められる機能と考えている。				研究	○	○
E 大学	データの整理、活用状況	評価※	一	課題	個別の情報は集まりつつあるが、大学の経営判断につなげる情報の統括、総合的な判断を行える体制の整備・実施が急務である。	経営	○	△
	IR体制の整備状況	評価※	一	課題	情報はある程度集まりつつあるが、有効利用するための体制が十分ではない状況である。	教育	○	△
	IRに期待すること	大学の経営戦略の策定につながる、効率的・効果的な情報の収集・解析。				研究	○	△

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	体制整備が不十分であり、また、構成員の意識も不十分と考える。	評価※		
						整備	活用	
F 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	体制整備が不十分であり、また、構成員の意識も不十分と考える。	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	専門知識を有する者が圧倒的に少ないと感じる。また、サステナブルな体制構築に向けた人材育成も行われていない。	教育	－	－
	IRに期待すること	大学が抱える課題の解決や新たな政策を実施する際、多様な情報を極力リアルタイムで提供できること。				研究	－	－
G 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	職員は協力的であるが、データが分散管理されているので、各部署に協力を要請してデータを収集して必要なデータセットを構築する必要がある。重要なデータが一元管理されるようになれば、よりスピード感を持ったIRが実施できると考えている。	経営	○	○
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	組織としての歴史が浅いためやむを得ないところもあるが、現時点では、兼任教員のみ的人员配置であり、また、事業費が措置されていない。事業の継続と発展のためには、事業費を確保して、IR担当者の人材育成や業務分担ができるようにする必要性を感じている。	教育	○	○
	IRに期待すること	エビデンスにもとづく意思決定に向けたさらなる貢献				研究	○	○
H 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	・データの整理がなされても、それを活用につなげる事例が少ない。 ・実際にデータを活用し、成功した取組が少なく、IR活動に対する各部署のインセンティブが少ない。 ・IR専属の職員を配置していない中で、学内IR情報の各担当部局から役員へ適宜共有は行っていないものの、部署間をまたぐ情報共有やそのデータの整理、活用が少ない。	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	・個々人の能力に依存してしまうため、人事異動により、IRに関連するノウハウが蓄積されない。（例えばBIツールの操作方法など細かい部分から、データの蓄積整理の仕方にかかる大枠の部分まで）	教育	－	－
	IRに期待すること	・意思決定において、参考となるエビデンスとしてのデータが参照可能な状況で蓄積されていること。 ・蓄積されたデータが、必要に応じて執行部に共有されること。 ・蓄積されたデータをもとに、執行部が適切な判断を行えるように、客観的なデータを収集・保持していること。 ・部署間をまたいだ案件にかかるデータが蓄積され、意思決定に生かされること。				研究	－	－
I 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	データの整理分析はある程度なされているが、そのデータを活用し次の方策を提案するまでに至っていないのが課題である。	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	◎	課題	IRに関わる人材に限られていること、その育成も未着手であることが課題である。	教育	○	○
	IRに期待すること	得られたデータの分析に基づき、次の方策の提案や大学の意思決定への積極的なコミットメントを期待する。				研究	－	－
J 大学	データの整理、活用状況	評価※	×	課題	継続的にデータを収集・分析するための人材、組織が整備されていない。	経営	×	×
	IR体制の整備状況	評価※	×	課題	教学IRに関わる専任担当者（任期付き）で採用する予定であるが、経営IRに関わる人材の確保、育成には至っていない。	教育	×	×
	IRに期待すること	データを踏まえて教学、経営の意思決定を実施すること。				研究	△	△

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	データの整理、活用がなかなか進まない	評価※		
						整備	活用	
K 大学	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	データの整理、活用がなかなか進まない	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	専任の教職員を配置できない	教育	△	△
	IRに期待すること	説得力のある資料・データの作成				研究	－	－
L 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	IR室が本格的に稼働してから日が浅いので、学長の指示で学部改革等に関連する情報の収集を優先して取り組んでいる状況である。今後は、大学全体のIRの構想を打ち立てる必要がある。	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	教職員合わせて200名を超える程度的人员であるためにマンパワーの不足は否めない。IR専任の教職員を配置することは難しいので、他の業務と併任という形でIRに取り組んでいかなければならないという課題がある。	教育	－	－
	IRに期待すること	中期目標・中期計画のための実績報告書や機関別認証評価の自己評価書の作成等のために学内の事務作業の負担が大きくなっている。これらの事務作業を効率的に遂行するためにIRが機能することが期待されている。				研究	－	－
M 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	データの集約と共有	経営	－	△
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	人材の拡充、問題意識の共有	教育	○	○
	IRに期待すること	现阶段では教学マネジメントでの積極的な利用、将来的には人事・経営マネジメントに役立てること。				研究	△	△
N 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	IR部門学内認知度が低く十分なデータ活用ができていない	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	エフォート100に近い教員の配置が必要と考える	教育	－	－
	IRに期待すること	学内外データの精査				研究	－	－
O 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	B I ツールの導入、大学内の情報・分析結果の共有、	経営	○	－
	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	I R 室は理事長直轄組織の専属職員2名体制で、他に理事長・副理事長・各学部長等の参加による I R 室会議を月1回開催しているが、専属・兼務に関わらず I R 室に教員の所属がない。これは教学 I R の推進にとって、ニーズ・現状の把握が十分にできないという課題があり、I R と各学部学科とのコミュニケーションを図り、問題意識を共有する必要があると感じている。	教育	△	△
	IRに期待すること	教学プログラム改革における数値での検証・サポート・提案				研究	×	×

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	課題	評価※	
				整備	活用
P 大学	データの整理、活用状況	×	課題	経営方針の策定・判断、政策のアライメントという場面でのデータの活用という面で大きな課題があると思う。故に会議で数値が出てくることはほとんど無い。	
	IR体制の整備状況	○	課題	附置研究所として設置しており、研究職の専任スタッフが2名、非正規スタッフ2名の体制である。見かけ上はすばらしいが、所長は経営・運営に関するどの会議体の構成員にもなっていない。	
	IRに期待すること	大学が行っている諸活動に対するチェック機能を果たし、計画立案、意思決定の場面での判断の一助となること。		研究	－
Q 大学	データの整理、活用状況	◎	課題	データを活用するのは、「人」だと思うので、その人材育成が課題。	
	IR体制の整備状況	◎	課題	特になし	
	IRに期待すること	全教職員が、有効活用するような「価値の浸透」		研究	－
R 大学	データの整理、活用状況	－	課題	小規模大学のため、母数の不足を補うための技術的な操作、考え方に苦心している。	
	IR体制の整備状況	－	課題	専任教員（兼務）の人員の確保	
	IRに期待すること	情報公開とは別に、組織内部における活性化を図る効果的な資料のありかたを知りたい。		研究	△
S 大学	データの整理、活用状況	○	課題	卒業後のデータ	
	IR体制の整備状況	○	課題	担当者の負担が大きい	
	IRに期待すること	担当者変更に柔軟に対応できるシステム整備		研究	○
T 大学	データの整理、活用状況	△	課題	現場担当者の一存で、データの所在、形式等が多岐に渡り集約、整理に時間がかかる。どのような分析を求めているのか現場から上がってこない。他大学との比較などをしたいが、同じ設問などを直ちには導入できない。	
	IR体制の整備状況	－	課題	IRの分析を行える者が限られており、それらは多くの場合、理系教員に限定されている。ようやく、分析を行う職員（情報センター職員）を割り当てられたが、まだ、実践レベルにはほど遠い。	
	IRに期待すること	私立大学にとってエビデンスに基づいた経営戦略は必須であるが、経営陣や入学者を預かる学部学科がIR情報を利用していない。今後は、これら各レベルの意思決定において、IRの情報を積極的に活用することを期待する。		研究	×

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	データ収集・分析の体制構築、分析課題の設定	評価※		
						整備	活用	
U 大学	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	人員の確保	経営	△	－
	IRに期待すること	改革課題の明確化、改革方向検討への示唆				教育	△	－
	IRに期待すること	改革課題の明確化、改革方向検討への示唆				研究	△	－
V 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	各部署が所有するデータの連携 データフォーマットの統一 教学IR	評価※		
	IR体制の整備状況	評価※	○	課題	IR担当者のジョブローテーション IR部門への投資の規模	経営	○	○
	IRに期待すること	様々な分野の統計やトレンドの把握 クロス分析によるデータの深堀り				教育	△	－
W 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	現在、データ収集を行っていますが、学生の個人情報に関する学内体制が十分整っておらず、苦慮しています。また、情報収集を通したPDCAサイクルが道半ばです。	研究	○	○
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	I R室が設置され、兼務で業務を行っています。その他の職員も兼務で業務を推進しています。私自身も学会等に参加して情報を収集していますが、自身の研修を深めたいと考えております。	経営	△	△
	IRに期待すること	本学の教育活動を真正に評価し、そのデータ分析に基づき様々な取り組みに対する活動・評価を本学の運営の活かしていきたいを考えています。また、他大学の先進的なIR活層を参考にして自校の発展に寄与したいと思ひます。				教育	－	△
X 大学	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	学内データが各部署で管理されているため、IRでの一括管理が難しい。また、データのフォーマットで様々であるので統一が必要と考える。	研究	－	△
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	教学IRセンターが新設されて日が浅いため、IRがどのような組織なのかの周知徹底されていない。 各部署でもデータを解析しているので、IRがどの様に関与していったらよいかを検討課題である。	経営	－	△
	IRに期待すること	データの蓄積、解析をしっかりと行い、意思決定に関する十分な情報提供ができること。				教育	○	△
Y 大学	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	まだ確固たるIR機能が確立されていないため、データは担当部署で蓄積はされているが、問題・課題解決のために活用されていない。現在一元化に着手しているが、学長のリーダーシップによる意思決定には役立てられていない。	研究	－	△
	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	【前提：現在はIR体制の組織を設置した段階】 ○データ及び情報がどこにあるかが不明瞭（おそらく○○部署にはあるだろう…程度の認識）。 ○データ及び情報が共有できていない。 ○ある課題を解決する時、経験知で動く習慣が抜けないため、説明責任を果たす際、納得感を得られない。 ○どのようなデータ及び情報を使って分析・資料化すれば、エビデンスになるかを熟考する習慣が無い。	経営	△	△
	IRに期待すること	○まずはIR担当者の思考力、分析力の高度化。 ○PDCAを回す際に、必要性の高い、かつ、説得力のあるエビデンスの構築。 ○エビデンスの必要性に対する教職員の意識向上の推進。				教育	△	△

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	データ利活用スキームの開発とそれを担う人材	評価※		
						整備	活用	
Z 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	データ利活用スキームの開発とそれを担う人材	経営	○	○
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	データ分析人材の確保	教育	○	○
	IRに期待すること	意思決定に関わるデータ分析への柔軟な対応				研究	○	○
A A 大学	データの整理、活用状況	評価※	◎	課題	データの種類の把握とデータの収集	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	◎	課題	IR担当者の人事異動など	教育	－	○
	IRに期待すること	データを活用した現状分析				研究	－	－
A B 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	学内において、調整・検証中のため、具体的な課題については割愛します。	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	学内において、IR体制の調整・検証中のため、具体的な課題については割愛します。	教育	－	－
	IRに期待すること	I Rによる数値化されたエビデンスに基づいた提言によって、大学の課題への対策が組織立って実行に移され、自発的な改善のサイクルがもたらされることを期待している。				研究	－	－
A C 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	整備前ですのでこれから始まります。	経営	×	×
	IR体制の整備状況	評価※	◎	課題	整備前ですのでこれから始まります。	教育	×	×
	IRに期待すること	整備前ですのでこれから始まります。				研究	×	×
A D 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	部局を超えた連携のあり方	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	組織体制、専門性を持った人材の確保・育成	教育	△	△
	IRに期待すること	教育の質の保証、教育施策の企画立案、問題点の改善				研究	△	△

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

	データの整理、活用状況	評価※	◎	課題	大学執行部と各部局間との意見調整や見解の相違	評価※		
						整備	活用	
A E 大学	データの整理、活用状況	評価※	◎	課題	大学執行部と各部局間との意見調整や見解の相違	経営	○	○
	IR体制の整備状況	評価※	—	課題	研究IRは先行しており、教学IRはやや遅れ気味。教育や学生支援は種類も多く対応が大変	教育	△	△
	IRに期待すること	大学の特性・特徴把握、方針決定への情報提供				研究	○	○
A F 大学	データの整理、活用状況	評価※	—	課題	IR人材の育成	経営	×	×
	IR体制の整備状況	評価※	○	課題	IR専門人材が高専機構に誰もいないため、手探り状態である	教育	○	○
	IRに期待すること	エビデンス・ベースでの教育改革				研究	△	△
A G 大学	データの整理、活用状況	評価※	—	課題	・ IRのためのデータベース構築を検討中。	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	—	課題	・ IR室の業務を所管する部課と担当者はいるものの、他業務と兼務の状態である。またIR室も各部署の教職員が集まりIR室の委員会を構成している関係で、分析・提言等に十分な時間を確保できていない。 ・ ベンチマークしたい大学の情報が不足している。	教育	○	○
	IRに期待すること	学習成果、教育効果や課外活動を含む学生の成長や成果を測り分析することにより、教育のPDCAサイクルを効果的に回していくことができる。				研究	—	—
A H 大学	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	各種データの整理が不十分であり、分析まで至らない状況である。特に研究力の分析を行うにあたり、各研究者の研究成果を把握することが困難である。	経営	—	—
	IR体制の整備状況	評価※	—	課題	データサイエンスの専門家が不足している。	教育	—	—
	IRに期待すること	データ収集や分析だけではなく、意思決定に資する提言の実施を期待する。				研究	—	—
A I 大学	データの整理、活用状況	評価※	○	課題	データの活用について自大学の教学データが主であり、近隣の大学や全国データとの比較検討があまりできていない点を課題と考えています。	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	—	課題	主に副学長1名、事務職員1名がいずれも兼務で担当しており、今後の業務分散（人材育成）を課題と考えています。	教育	○	○
	IRに期待すること	マネジメントサイクルのチェック機能として、問題点を洗い出し、学生指導やカリキュラム改革に繋げていくこと。				研究	△	△

※ 評価は5段階（◎、○、－、△、×）で表示する。

		評価※		課題		評価※		
						整備	活用	
A J 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	特になし	経営	－	－
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	経費とマンパワー		教育	－
	IRに期待すること	学生確保に関して、教育の質向上に必要なデータに基づいた方向性の提示				研究	－	－
A K 大学	データの整理、活用状況	評価※	－	課題	専属職員がいないうえ、専門的な知識不足	経営	－	○
	IR体制の整備状況	評価※	－	課題	専属職員を配置したうえで各学科間の連絡と協力体制の確立		教育	○
	IRに期待すること	データをもとに迅速な意思決定ができるように期待する				研究	△	△
A L 大学	データの整理、活用状況	評価※	△	課題	各担当によって個別に整理し活用しているため、全てを把握している部署等が存在しない。	経営	△	△
	IR体制の整備状況	評価※	△	課題	会議体の体制を整備していたが、十分に機能しなかったため、組織体としての体制整備を検討している。		教育	－
	IRに期待すること	ニーズ等を正確に把握できるエビデンスに基づいて、最良の意思決定を素早く行いたい。				研究	○	○